

1 倉敷市第三次環境基本計画の進捗状況等について

No.	ご意見・ご質問	審議会時の回答 及び 今回補足事項
1	水道水を飲料水として直接飲んでいる人の割合の指標について、安全でおいしい水が届くという目標に対してのものは理解するが、飲料水として直接飲むことを勧める必要があるのか。	水道水をそのまま飲むことだけでなく、「常に安全でおいしい水が届く」という目標に向け、利用者がどの程度水道水を安全と感じ、口にしているかを把握するための指標としている。
2	基本目標1の、生き物にふれあえる場とは、市の公園を指しているのか、田んぼや雑木林などを指しているのか。	必ずしも市の公園ではなく、近くの山や原っぱを含めたもの。ただし、自宅の植木などは除いたもの。
3	基本目標2の緑に触れ合う機会が減少するというのは、市の公園などが減っているということなのか、あるいは時間がなくてウォーキングやサイクリングに行けず、触れ合う機会が減少しているということなのか。	公園を含めて、山、林など、市民が触れ合うすべての自然を意図している。
4	市民がアンケートを回答する際、市民によって質問の捉え方が変わるものもあると思う。計画の途中でアンケートを変えるのも難しいと思うが、どのように考えているのか。	市民によって質問の捉え方が変わり、回答も変わる可能性はある。どのようなことができるか、検討していきたい。
5	倉敷市・高梁川流域SDGsパートナーの登録数はすでに目標を達成している。この場合、目標値はそのままとするのか、再設定をするのか。	目標値の再設定が可能なのかを含め、検討していく。
6	倉敷市・高梁川流域SDGsパートナーの登録者は企業だけなのか、個人でも登録できるのか。	個人事業主を含む企業、教育機関、その他団体であり、個人は対象ではない。
7	倉敷市の景観をよくする取組に関わりたいと思う人の割合について、よくする取組は何をイメージしているのか。回答者が分かりにくいのでは。	質問が分かりにくかった可能性がある。実際、アンケートの選択肢で「わからない」を設けているが、「わからない」の回答がある程度見られた。
8	リサイクル率の算出に当たり、ごみの総処理量は家庭ごみだけを計上しているのか、事業ごみも含まれるのか。	家庭から排出されるごみ、事業系の一般廃棄物、協力団体による集団回収であり、産業廃棄物は含まれない。
9	環境学習満足度について、市民アンケートの結果なのか、環境学習受講者へのアンケート結果なのか。	体験型講座、出前講座、施設見学を受けられた方にアンケートを実施した結果。
10	政策④で、瀬戸内海と高梁川の恵みを生かすという文言がある。海と川の恵みは水産物という印象があるが、指標は水産物のものではない。この、瀬戸内海と高梁川の恵みはどのような位置づけなのか。	水生生物については、基本目標1に位置付けている。そのため、瀬戸内海と高梁川の恵みとは、自然景観のことを指している。
11	環境学習満足度について、良くなった考察として講座内容の改善を上げているが、どのような改善を行ったのか。	講座前に学校などと事前に密に打ち合わせを行い、なるべく先方の希望内容となるようにした。
12	今回進捗状況について議論しているが、この内容は市民に広報されているのか。	毎年、倉敷の環境についてまとめた環境白書を発行しており、その中で進捗状況についても記載している。
13	進捗状況は環境白書に記載されているということだが、市民に手に取って読んでいただく、というのは中々大変であると思う。今後、よりよい方法を検討いただければと思う。	—

2 倉敷市第二次緑の基本計画の進捗状況等について

No.	ご意見・ご質問	審議会時の回答 及び 今回補足事項
1	身近な地域の緑の量が多いと感じている人の割合、緑のまちづくり活動に関わりたいと思っている人の割合について、どちらも減少しているがその理由は。	新型コロナウイルス感染症の影響を引きずっていることや、近年は夏が猛暑であり、緑を感じやすい夏に外出を控えるといったことがあると思う。このようなことで、緑と触れ合う機会が減少していると考えている。
2	上記目標を達成するための方法は。	毎年10月に緑化フェアを実施している。ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ボランティアの応募が少なかった。ただ、今年度はかなり早い段階から応募があり、目標に向けて改善できるのではと期待している。

No.	ご意見・ご質問	審議会時の回答 及び 今回補足事項
3	先日真備ふれあい公園ができたが、今後、新たな都市公園を整備する予定はあるのか。	大きなところでは、現在、山陽ハイツ跡地を整備している。

### 3 倉敷市生物多様性地域戦略の進捗状況等について

No.	ご意見・ご質問	審議会時の回答 及び 今回補足事項
1	<p>生物多様性について、世界的なレベルで生物、特に昆虫の生息種数が激減しているという話がある。原因がわからないため対策も取りにくい、そのようなことが起きていることを、市民と共有する形でデータ化することは重要である。</p> <p>例えば身近な公園でのバッタの種類や、ハエ、アブ、蚊といった双翅目の生息数などの調査は、重要なデータとなる。倉敷市自然史博物館と連携を取りながら、そのような活動をするのも手である。</p>	—
2	<p>ダルマガエルについては、豪雨災害により激減したが、2年ほど経過するとある程度回復してきた。しかし、最近、特に今年がひどい状況であり、1匹探すにも本当に苦勞する状況である。原因がはっきりとはわからず、近年の猛暑が繁殖に影響を与えているのかもしれないし、外来種の影響かもしれない。</p>	—

※補足事項：審議会時の回答以外で、委員の皆様にお知らせすべき内容・市の考えなどを補足したもの